



森・里・海と人の環 自由と創造の共生都市 高知

高知市は東西に広い高知県の中央部に位置し、南は浦戸湾を経て黒潮が流れる雄大な太平洋が一望できる土佐湾に面し、北には急峻な四国山地が連なり、東には肥沃な田園地帯が広がる自然豊かな都市です。明治22年4月1日に市制を施行し、高知県の経済、行政、文化の中心として発展を遂げてきました。

平成10年4月に、当時四国初の中核市へ移行し、平成の大合併に合わせ、平成17年1月には旧土佐山村及び旧鏡村と、平成20年1月には旧春野町と合併し、面積約309km²、人口約34万人の規模となりました。

古来より名所として知られる桂浜、はりまや橋、市の中央にそびえる高知城などがあり、坂本龍馬など数多くの偉人を輩出してきた高知市の街並みには、いまだその歴史を感じることできる場所が多く残っています。高知城下の追手筋では、毎日曜日に江戸時代から300年続く街路市（日曜市）が行われています。また、毎年8月には約2万人が乱舞する「よさこい祭り」が開催されるなど、高知市には見どころがたくさんあります。

高知市消防局の取組

当消防局は、1本部4課3署7出張所で組織され346人の消防職員（うち女性職員6人）、810人の消防団員（うち女性団員46人）で市民の生命・身体・財産を守っています。

平成22年7月1日には、消防局を高知市総合あんしんセンターに移転し、火災調査体制の向上のため、鑑識・実験室を整備。火災予防に対する住民への啓発・火災原因の究明



消防鑑識室での研修風景

高知県 高知市消防局

高知県 高知市消防局
消防局長 蒲原 利明



率の向上に活用しています。また、ITを駆使した「災害情報通知システム」を導入し、より高度となった消防緊急通信指令システムにより、一刻を争う災害に迅速かつ的確に対応し、かけがえのない「生命」を守っています。

当市においては近い将来必ず来る南海地震への対策が急務となっており、過去の南海地震で得た教訓を

活かし、様々な課題に対して取り組むこととしています。

基本政策のひとつである“いのちと暮らしを守る「あんしんのまち」づくり”を実現するため、消防署所の耐震化と併せて署所再編計画に基づく5つの消防署所の耐震化及び再編整備を推進するとともに、東日本大震災の教訓を活かし、消防職・団員にエアージャケット（瞬間膨張防護服）を貸与する等安全確保を第一に、南海地震発生時の災害対応力の強化及び消防・救急体制の充実強化を目指しています。

また、自主防災組織の結成率100%達成を目指すとともに、防災人づくり塾等により防災リーダーを育成することとしています。防災人づくり塾では、昨年度までに約1,000人の防災リーダーの育成を果たすことができ、今後も定員を拡大して育成強化を図っていく予定です。

南海地震等大規模災害発生時には、公的救助機関の対応が遅れることが予想されるため、「自助・共助」の考えに基づき広く救命講習の受講を推進し、大規模災害発生時の市民の救命率向上を目指し、今後も引き続き市民を対象に応急手当の普及啓発活動を継続して行っていく予定です。

当消防局は、消防と市民とが一体となって災害等に対して、市民の目線に立ち前向きに取り組む、いつまでも「元気なまち」高知を守っていくため、消防職・団員一丸となって精進してまいります。



エアージャケット
（瞬間膨張防護服）